

【区分】

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

【03】物資の受入と仕分け、配送

【教訓情報】

01. 当日昼頃から届き始めた物資・食料の受入は、被災自治体の市役所・区役所などで行われた。保管場所・人手の不足する中での物資積み降ろしは非常に大変だった。

【教訓情報詳述】

01) 保管場所がなく、物資の届いた市役所・区役所等の駐車場等には、物資が山積みとなった。

【参考文献】

【引用】 昼前、神戸の惨状を知った阪神間の企業、近隣自治体から救援物資が届きはじめた。国道2号線に面した東灘区役所の駐車場は物資の集積拠点となった。職員は公用車やマイカーに積み直し、区内の小学校など大きな避難所に運んだが、配送作業は渋滞に阻まれた。夕方には駐車場に救援品が山積みとなった[神戸新聞社『大震災 その時、わが街は』神戸新聞総合出版センター(1995/9),p.140]

>

【引用】 救援物資は、初期の段階では市役所を目指して送られてくるが多かったことから、とりあえず、1月17日午後、市役所3号館と1号館との間の道路及び歩道と3号館1階の駐車場を物資の集積場として利用し、区役所への配送を始めた。[『平成7年 兵庫県南部地震 神戸市災害対策本部民生部の記録』神戸市民生局(1996/8),p.12]

>

【引用】 本来、物流の拠点でない(東灘)区役所前が膨大な物資の物流拠点となった。[藤井良三「震災時の救援物資の配布」『都市政策 no.82』(財)神戸都市問題研究所(1996/1),p.34]

>

【引用】 大量に到着する救助物資の保管場所を予め決めていなかったため、配送・保管のための倉庫探しから始めなければならなかった。[『平成7年 兵庫県南部地震 神戸市災害対策本部民生部の記録』神戸市民生局(1996/8),p.12]

>

【引用】 日赤の兵庫県支部には、18日早朝から、全国の支部や企業からの救援物資が届きはじめた。保管場所がなく、支部前の道路は約200mに渡ってトラックが数珠つなぎ。自治体からの要請が入らず、各市や区の対策本部に連絡して必要な物資を問い合わせた。県に掛け合せて、支部近くの中央労働センターを備蓄倉庫と宿泊所として使えるようになったのは20日からだった。[神戸新聞社『大震災 その時、わが街は』神戸新聞総合出版センター(1995/9),p.151]

>

【引用】 (震度7エリア自治体アンケート結果) 救援物資の保管場所は、当時は広くて雨のかからない場所として市役所駐車場しか思い当たらなかったが、後から考えれば仮設テントでもよかった。[『平成9年度防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域) 調査票』(財)阪神・淡路大震災記念協会(1998/3),p.102]

>

【引用】 (震度6エリア自治体アンケート結果) 救援物資の受入れ場所については、当初保健福祉部の会議室を利用していたが、運ばれてくる物資の量が多く、市民会館(被災のため休館)、中央体育館、近接する小学校へ切り換えた。[『平成9年度防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域) 調査票』(財)阪神・淡路大震災記念協会(1998/3),p.103]

>

【引用】 (震度6エリア自治体アンケート結果) 全国各地からの物資が1/20頃から、到着し始め、それを人力でおろして、南館ロビーに集積したが、すぐに置き場所がなくなって、別途集積場所を確保した。[『平成9年度防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域) 調査票』(財)阪神・淡路大震災記念協会(1998/3),p.103]

>

【引用】 (震度6エリア自治体アンケート結果) 本市においては、食料飲料水他物資について不足した例はない。ただ、次々と寄せられる援助物資については、市の庁舎自体が手狭であり、集積拠点としては隣接する市民会館の会議室やロビー等とした。量的にはなんとか保管することができた。[『平成9年度防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域) 調査票』(財)阪神・淡路大震災記念協会(1998/3),p.103-104]

>

【引用】 (正司泰一郎・当時の宝塚市長のインタビュー発言)
市役所の中や市役所の横に空間がいっぱいあるというのはものすごく有効だということがわかりました。宝塚市の市役所というのは村野藤吾さんが設計されたもので、1階に市民ホールがありますけれども、ここを避難所にしなかったのですね。そこに支援物資を収納して、市庁舎の周辺もバルコニーがあるでしょ。これがものすごい威力を発揮した。支援物資の仕分けの基地としては最高によかったですね。
それから、前に武庫川の河川敷があるでしょ。これもよかったですね。大型ヘリコプターが入るんですよ。お風呂をあの市役所のバルコニーに数十個とつくりましたからね。
[『阪神・淡路大震災復興誌』[第8巻]2002年度版』(財)阪神・淡路大震災記念協会(2004/3),p.95]

【区分】

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

[03] 物資の受入と仕分け、配送

【教訓情報】

01. 当日昼頃から届き始めた物資・食料の受入は、被災自治体の市役所・区役所などで行われた。保管場所・人手の不足する中での物資積み降ろしは非常に大変だった。

【教訓情報詳述】

02) 交通渋滞などにより、物資はいつ届くか分からず、職員、ボランティア等が24時間体制で積み降ろし作業に追われた。

【参考文献】

[参考] 物資受入の実態については、[藤井良三「震災時の救援物資の配布」『都市政策 no.82』(財)神戸都市問題研究所(1996/1),p.35-37]にある。

>

[引用] 交通渋滞の発生は、配送拠点への物資到着、配送拠点から避難所までの物資配送の遅れをもたらした。配送拠点及び避難所では、深夜、早朝に到着する物資に対応するために24時間体制で人員配置をする必要があり、人手の確保が大きな問題となった。[進藤幸生「阪神・淡路大震災時における神戸市内での救援物資等の輸送」『交通工学 Vol.30増刊号』(1995/10),p.52]

>

[引用] (東灘)区役所では職員が20人がかりで荷降ろしを行った。作業は夜を徹して続いた。日が変わり、職員の疲労はピークに達した。[神戸新聞社「大震災 その時、わが街は」神戸新聞総合出版センター(1995/9),p.141]

>

[参考] 神戸市における震災直後の救援物資の受け入れ・配布状況については、[『平成7年 兵庫県南部地震 神戸市災害対策本部民生部の記録』神戸市民生局(1996/8),p.12]にある。これによると、物資保管場所を定めていなかったことから倉庫探しから始めたことされる。倉庫では職員が24時間体制をとり、手作業で大量の物資の荷下ろし、仕分け、積み込みを行った。

>

[引用] (被災自治体避難者・被災者支援担当職員ヒアリング結果)食料、救援物資等をどこに運んだらいいかという電話が震災直後からひっきりなしにかかってきた。他の場所を確保する余裕がなく、場所がわかりやすいので、市役所に運び込んでもらうことにした。しかし、運び込まれてきた食料、救援物資は、ものすごい量。1回に20トントラックが10何台くる。保管場所が無い。トラックは荷物を下ろしてすぐに帰らなければならないが、市役所に運び込んだ荷物をトラックから降ろす作業を当初、市の職員が行った。肉体労働で大変であり、他の業務も出来なくなる。[『平成9年度防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域) 調査票』(財)阪神・淡路大震災記念協会(1998/3),p.22]

>

[引用] (震度7エリア自治体アンケート結果)10t車からライトバンに乗せ変えるなどして荷下ろしするのに1時間以上かかったため、常にあと10台くらい待っている状況だった。[『平成9年度防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域) 調査票』(財)阪神・淡路大震災記念協会(1998/3),p.102]

【区分】

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

[03] 物資の受入と仕分け、配送

【教訓情報】

02. 現場では必要量の把握が困難で、被害の全容もよくわからない状態での配送が行われていた。区役所などへ避難所等から直接物資を取りに来る人もいた。

【教訓情報詳述】

01) 当初の混乱の中では、届くまでは何が届くかわからず、どこで何が必要とされているかも不明のまま、物資の配送が行われた。

【参考文献】

[参考] 物資の受入・配送についての実態は、[藤井良三「震災時の救援物資の配布」『都市政策 no.82』(財)神戸都市問題研究所(1996/1),p.34-38]参照。

>

[引用] (震度6エリア自治体アンケート結果)1/26から食料を業者発注し、避難者に届けるとともに、救援物資を随時配布することとした。職員で手分けして行ったが、避難所からのニーズが不明確な場合も多く、交通渋滞の中で搬送は大変だった。[『平成9年度防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域) 調査票』(財)阪神・淡路大震災記念協会(1998/3),p.103]

【区分】

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

[03] 物資の受入と仕分け、配送

【教訓情報】

02. 現場では必要量の把握が困難で、被害の全容もよくわからない状態での配送が行われていた。区役所などへ避難所等から直接物資を取りに来る人もいた。

【教訓情報詳述】

02) 避難所などから自治会単位で物資を取りに来た例もあり、必要物資・必要量を把握した上で判断したため有効だったが、個人への給付は原則として行われなかった。

【参考文献】

[引用] 区役所では個人への給付はしなかったが、自治会単位でとりに来られる方には渡した。避難者の状況もつかんでいるし、必要なものも在庫の中から判断して配送していただけたのむしろありがたかった。[藤井良三「震災時の救援物資の配布」『都市政策 no.82』(財)神戸都市問題研究所(1996/1),p.36]

>

[引用] どこかの避難所で何が必要かは、各避難所の方が状況をつかみやすい。ただし、避難所毎の水準の調整が難しい。[藤井良三「震災時の救援物資の配布」『都市政策 no.82』(財)神戸都市問題研究所(1996/1),p.40]

【区分】

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

[03] 物資の受入と仕分け、配送

【教訓情報】

03. トラックに職員を道案内として付け、避難所に直行するという方法で物資を送り届けた結果、物資が届けられたのは幹線道路沿いの大規模な避難所に偏った。

【教訓情報詳述】

01) 積み降ろしの手間を省くため、物資を輸送してきた車両に職員が同乗し、そのまま避難所へ配送に廻るといった方法がとられた。

【参考文献】

[引用] 区役所などに集積してから各避難所に配送する方法は、積み卸しの作業量が膨大すぎる。学校など大規模避難所へは、直接配送することも考えられた。[藤井良三「震災時の救援物資の配布」『都市政策 no.82』(財)神戸都市問題研究所(1996/1),p.40]

>

[引用] 当初は、一度出発すると渋滞でなかなか戻ってこれない、バイクもたいした量は運べないなど、配送方法にも苦慮した。その後、救援物資を運んできた業者に避難所への直接配送を依頼するようになった。[藤井良三「震災時の救援物資の配布」『都市政策 no.82』(財)神戸都市問題研究所(1996/1),p.35]

【区分】

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

[03] 物資の受入と仕分け、配送

【教訓情報】

03. トラックに職員を道案内として付け、避難所に直行するという方法で物資を送り届けた結果、物資が届けられたのは幹線道路沿いの大規模な避難所に偏った。

【教訓情報詳述】

02) 大型トラック等による直接輸送のため、物資到着が主要幹線道路沿いの避難所に偏る場面もあった。

【参考文献】

[引用] (東灘区役所では)トラックに職員を道案内として付け、避難所に直行するよう依頼した。こうした方法で物資を送り届けた結果、物資が届けられたのは幹線道路沿いの大規模な避難所に偏った。[神戸新聞

社『大震災 その時、わが街は』神戸新聞総合出版センター(1995/9),p.141]